

市長賞(最優秀賞)

未来のこうふ

甲府市立南中学校 三学年 清水 啓音

今、日本は超高齢化社会に突入しています。甲府市では、高齢者と呼ばれる六十歳以上の人の割合は四人に一人です。十年後にはますます高齢者が多くなると予想されています。だからこそ住みよいまちというのは高齢者にとっても暮らしやすく、地域の関わりが充実しているまちだと私は考えます。

高齢者の多くは、定年を迎え、仕事をしていた人が大半です。だから地域の活動をしていくことが多いと思います。地域の活動をしたいという事はつまり、地域の人々との関わりがたくさんある、ということだと思います。そうなるとう高齢者の方は、日常の関わりが増え、災害時の助け合いや地域行事の活性化につながります。

例えば、小学生の登下校の安全を見守る高齢者の方を多く見かけ、子供たちは安心して学校に通うことができます。また、私たちが

地域行事に参加すると自然と地域の人との関わりが増えてきます。それにより、同じ地域に住む人同士のつながりをつくることができ、まず、私たちのような中学生でも行事などを通してこのように交流する機会も増えます。これは私たちが住みよいまちにもつながってくるのではないのでしょうか。

甲府市のスローガンは「人がつどい」が、かよう笑顔あふれるまち・二うふ」です。人がつどいということは、地域の人との関わり

が増えるということ、心がかようということ、地域のお祭りなどの行事を通して一丸となることだと私は考えます。そのためにやはり回覧板の受け渡しや近所の人に会った時のあいさつなど、日常の小さなことでも地域の人との関わりは必要不可欠だと思えます。十年後は私たちが働く世代となります。私たちが率先して地域の関わりを充実させていかなくてはなりません。甲府市を誰もが住みよいまちにしていきたいです。

未来のこうふ

南西中学校一年

大森

千嘉

私は十年後のこうふが、どうすれば、今よ

りも、と住んでみたい、住んでよか、たと

思ってももらえるのか考えてみました。

そこで私はまず住んでみたい街ランキング

で九年間一位の街、吉祥寺について調べてみ

ました。アンケートで吉祥寺と答えた人の理

由は、都会と自然のバランスがいい、や、緑

が多く、ひと休みできる公園がある、などの

緑が多いことについて、交通の便がいい、

都心へすぐ行ける、など交通の環境がいい

ことが理由に挙げられています。

とある実験で、道に緑のプラントが並ん

でいるかいないかで、その街に住みたいかど

うかがが変わるという結果が出ました。

一つの事をするだけで街の印象を大きく変え

ることができるのです。

次に交通についてです。甲府駅から東京駅

へは電車で一時間四十五分もかか
 るとても「すぐ行ける」時間ではあ
 りません。しかし、ただ都心へすぐ
 行けるから吉祥寺が一位な訳では
 ありません。吉祥寺は駅周辺で全
 ての買い物物が済んでしまうとい
 うのも魅力の一つのようです。こ
 のような駅の半径四百メートル
 内に店が点在している街をコン
 パクトシティというそうです。私
 は甲府も13年後完成予定のリ
 ニアモーターカーの駅、新駅周
 辺がコンパクトシティになれば
 いいと考えます。東京へも二十
 五分で行くことができません。私
 は十年後のこうふを今よりもも
 といい街にするために次の二つの
 ことをしたらよいと思います。ま
 ず緑を増やす活動。商店街やお
 店が市と協力し、街に緑を少し
 ずつでも増やしていくことです。
 次にリニアモーターカー完成ま
 でに新駅周辺の設備を整え、見
 事なコンパクトシティにするこ
 とです。以上の2つのことをす
 ればこうふの街は今よりもまし
 くなると思います。

「未来のこうふ」

南西中

二年

清水

克樹

今の甲府を自分なりに考えてみた。最初に思っ たことは子どもが少なくなっているとい うことだ。実際に僕の学年は三クラスしかない。僕が入っている野球部は十一人でぎりぎり で試合をやっている。これが現在の状況だ。次に思い浮かんだのは公園のこと。甲府の公園は周辺の市町村に比べて魅力的ではなく使 いづらいと思う。

親に聞いてみた。すると甲府は非常に子育てをしにくいとの意見だった。例えば、子どもとのびのび遊べる場所が少ない、子育て支援が充実していない、子どもに優しくない町 だと言っていた。だから皆甲府で子育てをしないのだと母が言っていた。

そこで僕はどうしたらこの甲府が魅力的な町になるか考えてみた。

ひとつめに、子どもを一番に考えた町づく りが大切だと思う。例えば公園を整備し、子

どもたちが安全に楽しく遊べるようにするこ
と、また子育てがしやすいように多くのお父
さんやお母さんの意見を聞き、その意見を反
映する窓口を作ること。このようなことが考
えられる。

ふたつめに、地域のつながりを取り戻すこ
とも大切だと思う。僕の地域では、自治会の
活動に参加する人が年々減少し、大半がお年
寄りになっていいる。だからもつと若い子ども
たちも積極的に参加できるような取り組みが
必要になつてくると思う。

このような取り組みを実行していけば、徐
々に子どもが増え、そして笑顔がたえまなく
はじける甲府になると思う。少子化を解決で
きる糸口になるかもしれない。

十年後は僕も父親になつていいるかもしれな
い。その時は、僕たちができることは積極的
に協力していきたいと思う。そして子ども達
に誇れるような甲府市になつていいる、きつと

未来のこうふ

南西中 一年 小澤 菜緒

私は、今のこうふの好きな所かたくさんあります。特に好きな所は、自然がきれいな所です。世界遺産の富士山がきれいに見えるのは、とても誇りです。それに、自然かたくさんあるから、水もきれいだし、空気もきれいです。都会に旅行に行つて帰つてきた時によく、空気がきれいだなあ実感します。だから十年後のこうふも、素晴らしい自然やきれいな富士山がそのまま残さねてほしいです。しかし、もつと良くなつてほしい所もあります。一つ目はゴミのポイ捨てが多い所です。ゴミのポイ捨てをなくすには、一人一人が意識すること加大切なので、きちんとして良い事と悪い事の区別ができる大人になつていきたいです。そういう大人が増えて、ポイ捨てがどんどん

減って行ってほしいです。

ニつ目はシャツ通りがある所です。シャツ通りのようにさびれてしまっている所か、また何かのお店になっ、ていて、十年後にはにぎやかな商店街になっ、ていてほしいです。

三つ目は子供が安心して楽しめる公園が少ない所です。私の家の近くには、たくさん公園がありますか、どこも見通しが悪く、不審者の情報も聞いたことがあります。だから、見通しが良く、子供が安心して元気いっばいに遊ぶ公園ができていたらいいなと思います。

す。

十年後には、リニアモーターカーが開通していて、ちかう県からあ、という間に山梨県に遊びに来れるようになっていると思うので、たくさんさんの人がこのこうふの街に来て、素敵な街並みときれいな自然を感じ、良い街だなあと思っ、てくれていたらうれしいです。

佳作

未来のこうふ

南西中

二年二組

小澤

未値

あと三年でリニアが開通する二〇二四年、甲府は、希望であふれている。日本の真中、山梨県。そして、その中心の甲府市は、今や住んでみたい街。ナシバーワンにあげられる。自然と人が共存する。自然と文化が融合する街。空気も水も澄んでくる。だから、そこに住む人の心も澄んでくる。太陽光発電によって、全世界の電力はまかなわれている。景観を損ねないように、モノレールが街と街をつなぐ、リニアの発着駅には、専用道路が設けられ、どこからも最短でアクセスができる。流れる川は、きれいに澄み、魚たちが水しぶきをあげて泳ぐ。十年前は、あんなに汚なかっただ川が生まれかわっている。そして、私たちが十年前に提案した、公園の整備も大きく進歩している。どこも同じ様な変てつのない公園だ。だが、南西第一公園は、水遊びが出来ろ公園。第二公園は、楽しい遊具が揃っている。

る。第三公園は、交流の場。

それは、エリアの特色を生かしながら、人が息づく原点。

文化も、科学も最高の域に達しながらも、人と人の心が接するあたたかさか街を包む。子供も大人も、お年寄も、障害を持っていらっしゃる人も、生きていくことが楽しい。いつ何が起きてもお対応できる防災のしくみが整備されている。

そして、今も変わらぬ、季節ごとにおいしい果物が実る。春はいちご、さくらんぼ、夏は、桃、秋はふぶら、冬は柿。

私の大好きな街。

フエ。 JAPAN 甲府!!

佳作

未来のこうふ

甲府市立南中学校

2年

村上

夏美

私は、住んでみたい、住んでよかっと思

える。未来のこうふについて次のように考

えろ。

まず、甲府市に住んでいそみんなが、豊か

で気持ちよく暮らせる町をつくることか大切

だと思う。私達子供は、建物を建てたり、お

店の商品を売ったり作ったりはることはでき

ない。だから、そのようになことを大人、私達

の親が一生懸命やっさいる。それは、これか

らの甲府には大切だと思う。では、私達には

何ができるだろうと考えたとき、大まなこと

は、できなないが、町のゴミを拾う、近所の行事

に積極的に参加する、あいつをたくさんす

るといった、小さなことから始めたいこと

が良いと思う。ゴミを拾えば町がきれいにな

り、近所の行事に参加することだ、みんなで楽々

くなら、あいつをすることだ、お互いが気持ち

ち良くなる。ほんの小さなことだが、笑顔を増

No.

No.

やし、豊かで気持ちよく暮らせる第一歩にな
ると思う。

次に、安心・安全に暮らせる町をつくるこ
とも大切だと思う。最近では、とても物騒な

事件が、多く不安だ。甲府市でも、このよう
なことがあつては、甲府に住んでよか
たとは

決して言えない。しかし、近所の人と交流を
深めたり、お互いを意識すること、ま
あり

の小さな変化に気付ける仕組みが安心
●安全に暮らせ、笑顔が増えるのがいい
なにか

と思う。このように住んでみたい、住んでよ
か

たと思う。町は、モと笑顔が多
いのか、科学的な

進化も大切だが、身近なところから、ま
あ

の人と協力したり意識し、一人一人が進
化し、

少しずつ笑顔を増やし、甲府市全体を笑顔
に

していくことが一番大切だと思う。

未来のこうふ

甲府南 三年

青山 奈津希

私が住んでいる甲府市は、宝石加工がさか
 んで、農業・林業では自然を生かした産業が
 発展し続けています。また、温泉や観光地な
 ども充実しています。

産業では、宝石加工や盆地特有の気候を活
 かしたぶどうやとうもろこしなどの生産がさ
 かんです。

温泉地は、良質の高温泉がわき出ているこ
 とで有名です。

観光地は、山梨百名山に選ばれている山が
 あり、自然を肌で感じられるところがたくさ
 んあります。

甲府市は、土地や環境を活かした良いとこ
 ろがたくさんあります。今よりも、もっと
 住んでみたい、住んでよかったと思えるよう
 にならためには、どのような町になれば良い
 か考えてみました。

一つ目は、交通整備をすることだと思いま

す。夕方頃、いたるところで渋滞が発生します。渋滞を解消するためには、右折ラインや矢印信号をしりかりつくることで直進車がスムーズに行ききできるようにすることだと思えます。また、歩道をゆっくり歩行者の安全を守ることも大切だと思えます。

二つ目は、日照時間が全国でもトップクラスの甲府市だからこそ自然エネルギーの活用です。太陽を利用した太陽光パネルを現在よりも多くの家庭で設置できるようにすると良いと思えます。太陽光パネルとは、災害、停電時の非常用電源として使うことができ地球にやさしいものです。

三つ目は、若い人が働ける場所をつくることだと思えます。過疎化が進む甲府市では、もともと若い人が働きやすい環境を整えることが大切だと思えます。

十年後の甲府市も自然が豊かで産業がおとろえていかなければなりません。現在よりも住みやすい甲府市に変わってほしいです。

「未来のこうふ」

甲府市立南西中学校 三年 石川夏綺

私が十年後に住んでみたい、住んでよかったです。と思える甲府は、商店街が活気であふれていて、自然もあり都会的要素のある町です。十年後というときは私は二十五歳です。多分、甲府が今のままあまり魅々のない町だったら正直住みたいとは思いません。

電車、バス、お店、高校などを足りないと思えるものかたくさんあって、特にバスと電車は少なすぎると思います。何十分、何時間に一本のバスがあるので母も市井の高校へ通って、いざというときは、部活などで電車に乗れず夕ワミで帰ったこともあったそうです。電車やバスが少ないというのは、学生にとっても大変だと思っています。次にお店が少ないと思えます。東京や京都など他県の駅はお店がいっぱいあり、とても楽しかったです。しかし甲府駅は集めるところがなく、人も少なくて暗い

栗田気があります。駅は中高生、社会人の女性向けの店舗を入れれば、仕事の帰りに立ち寄り、飲みようと思ったり、休日に友達や恋人と一緒に出かけようと思えば可能です。

だからといって自然がない町になれば、と思っ
ていろいろわけではなく、自然も十分にあり、ほ
うが、いいと思います。今、甲府の町の空気が水が綺麗なのは自然が豊かなおかげです。だから自然は残ってほしいです。

電車やバスの通る数、甲府駅や駅周辺の中心

高生、社会人を中心としたみんなが楽しめるようなお店の店舗数などが多く、自然も多くあるような、ホッとした子どもから老人の方まで、誰もが楽しめる甲府の町に住みたいです。

そしてこんな町が実現すれば、他県から多くの人が来て、明るくおやかな町になるだろうし、甲府に住んでいる人たちも甲府に住んでいてよかったです。自然となるのではな
いかと思
いました。